

令和2年度第2回士別市教育委員会会議録

1. 日時 令和2年4月30日(木) 午前9時00分～午前10時23分
2. 会場 教育委員会 会議室
3. 出席者
- | | | | |
|-------|-------|---------|------|
| 教育長 | 中峰寿彰 | 生涯学習部長 | 鴻野弘志 |
| 職務代理者 | 五十嵐紀子 | 合宿の里統括監 | 三上正洋 |
| 委員 | 馬場千晶 | 学校教育課長 | 須藤友章 |
| 委員 | 加藤洋之 | 社会教育課長 | 武山鉄也 |
| 委員 | 山田敦久 | | |

4. 議件(発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

朝の貴重な時間にお集まりいただいた。新型コロナウイルスの対策について、国・文科省や道教委から様々なことについて通知されている。学校については、北海道知事からの要請を受けて5月6日まで休業しているところ。

一昨日、加藤委員から新型コロナウイルスの対応に関する保護者の声が寄せられた。教育委員会が新制度に移行した理由の一つは、教育行政の迅速化が求められていることである。校長会などと協議し、早急に今後の動きを決めていきたい。

本日は、午後から全道教育長TV会議が開催されるが、同じ時間にハーフマラソン等の実行委員会会議を予定しているため、教育長TV会議には鴻野部長が代理で出席する。

本日もよろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第4号 令和2年度士別市教育委員会補正予算について説明を求める。

○鴻野部長

新型コロナウイルスの影響によって学校が臨時休業となり、給食も停止しているが、給食費は私会計であり、購入してしまった食材の費用については保護者に負担いただくべきものである。

しかし、経費は国が補助金として交付することになったので、保護者に経費を返還するよう通知があったことから予算を補正するもの。

なお、国からは食材費及びキャンセル料の補償金額のうち75パーセントが補助金として交付されるが、残りの25パーセントの8割は特別交付税の対象となるので、市の実質的な持ち出しは5万6千円となる。

○加藤委員

保護者への返金はいつ頃になるのか。

○鴻野部長

3月で卒業した生徒の分は、4月20日から30日までの間に給食センターに受け取りに来ていただいている。4月以降も小中学校に在籍している児童・生徒の分は、本年度の給食費に充当する。

○中峰教育長

当初は全員に一度返金することを想定していたが、方針転換したもので、ほとんどの人は現金のやり取りをしなくなった。

○五十嵐職務代理者

購入してしまった食材は、どこで処分したのか。

○鴻野部長

肉は解凍してしまったため処分せざるを得なかったが、調整が間に合ったものは、コスモス苑や桜丘荘に提供した。4月分の食材も冷凍のものを多用し、廃棄しないよう工夫している。

○中峰教育長

パンや牛乳のキャンセルに対する補償について説明を。

○鴻野部長

パンの経費については材料費と加工の労賃があるが、国から補填されることになる。牛乳は文科省と農水省の持ち分がある。本市はよつ葉牛乳から納品されているが、キャンセルした分は別の用途に使用しているため、実害はでていないため、補償は求めないと聞いている。

○中峰教育長

申請しなければ補償されない。牛乳は会社ごとに対応が違うようだ。休業が長引くと、生産者へのしわ寄せが懸念される。給食の配送業務も同様に補償等がなされるべきと考えるが、3月に休業となった時は業者から「仕方ない」との話が聞かれた。通学タクシーの運行を委託している事業者は、損失分を国の雇用調整助成金として申請するようである。

○五十嵐職務代理者

牛乳は脱脂粉乳に加工しているが、消費されなければ在庫が過多になり、生産調整される恐れがある。道内の酪農家数は減少しているが、1戸あたりの生産量は増えている状況にある。

※ 議案第4号 了承

○中峰教育長

議案第5号 士別市学校運営協議会委員の選任について説明を求める。

○武山課長

前回の会議で承認いただいたが、その際に委員が決まっていなかった士別南小学校について提案する。

○中峰教育長

この件についてはよろしいですか。

※ 議案第5号 了承

○中峰教育長

議案第6号 新型コロナウイルスに関する学校等の対応について説明する。

北海道知事からの要請を受け、4月17日には臨時校長会を開催して休業について協議し、翌18日には中央4校における分散登校の考え方や学習の課題などについて話し合いを行った。

お配りしている資料は、3月以降、内容が更新される度に通知されている「学校における教育活動の再開等に関するQ&A」です。この通知は学校再開を想定した対応等について考え方を示したものだが、通知の中に矛盾していたり、整合がとれない記載が見うけられ、中途半端な表現になっている部分もある。

市内の学校では、職員室が密にならないよう可能な範囲で在宅勤務を行っているが、あくまで勤務であり、休暇ということではない。また、都市部の学校では通勤時の混雑を避けるため、時差出勤に取り組んでいる場合もある。添付資料について加藤委員から説明を。

○加藤委員

前回の会議以降に保護者の声や意見をまとめたものである。学校のICTを活用したオンライン授業は、保護者の機器保有状況を把握する必要があり、持っていない場合の対応が課題となる。教職員がコロナ

ウイルスに対する正しい知識を身につけていれば、子どもや保護者に説明することができる。ゴールデンウィーク中の外出自粛を要請されているが、それでも帰省する予定の人がおり、全国で5万人くらいが航空機の予約をしているとの情報があるため、分散登校の実施について不安を感じる。学校行事や各種大会については、それぞれでの判断が難しく、市や教育委員会で判断してもらいたいとの声もある。また、こんな情勢だからこそ体を動かす機会を設けてほしいとの考え方もある。休業要請の影響で、収入が激減してしまう人もいる。生活状況が変化した人に奨学金を貸与できる方策が必要ではないか。

○五十嵐職務代理者

長時間でなくても良いが、オンライン授業が実現し、画面を通じてお互いの顔が見られれば、子どもも教師も安心できる。現在は週に2回確認の電話がかかってくるが、電話の時間は決まっていない。

○山田委員

ICTの推進は必要なことである。子どもたちは自宅待機のような状態にあるが、一方で教員の感染も防がなければならない。八方塞がりと感じている。

○中峰教育長

オンライン授業の実施を想定する必要があると感じている。例えば無料通信アプリの機能を活用する方法なども考えられる。子どもも教員もお互いに顔が見られると気持ちも多少埋められる。文科省や道教委は機器や環境が全て整っていることを前提として考えている。パソコンやプリンターがない家庭はどうするかという課題があるため、各家庭の状況を調査しなければならない。自分のパソコンを保有していない教員は、備品のパソコンを持ち帰り在宅勤務している例もある。ある学校ではALTが英語の教科書を読み上げる動画を撮影し、試験的にDVDを作成した。市のホームページで公開したいと考えていたが、著作権の関係で難しいようである。作成した学校では、生徒にDVDを配付する予定と聞いている。3月に臨時休業した際には、教員から子どもたちに向けたメッセージが新聞の特集記事として掲載された。学習の遅れを気にしたり、地域別の学校対応の違いを批判する声など、学校の再開に向けて様々な意見があるが、子どもたちを守ることを最優先に考えるべきである。

○山田委員

9月からリスタートするべきとの話が出ているが、準備を整えなければ対応できない。

○中峰教育長

土別だけで決められることではない。学校や地域の行事・イベントなども、どこまで見通して中止にするべきか。教育委員会として示してもらいたいとの声がある。ハーフマラソンについては、この後開催する実行委員会で決定する予定。学校行事は最大限できることを延期も含めて実施してもらいたいと思っている。

○加藤委員

学校から配られた課題のうち、3割程度しか終わっていない中学生もいるようだ。

○馬場委員

受験を控えている学年は不安に思っているのではないか。大学生くらいになればオンライン授業で問題ないと感じるが、小中学生ではどうか。DVDを配付するのは良いアイデアだと思う。

○山田委員

このまま休業が続いた場合、授業時数はどうなるのか。

○中峰教育長

夏休みなどの長期休業を短縮したり、土曜日に授業を行うなどが想定される。しかし、土曜日に授業を行う場合、中学校は教科担任制のため教員の調整が可能と思われるが、小学校はクラス担任制であり教員が代休を取得することが困難である。欧米に合わせて入学の時期を9月に変更すべきとの意見があ

るが、社会全体の仕組みを見直す必要があり、学校だけの問題ではないと考える。

コロナウイルスについて正しい情報をいかに伝えていくか、感染してしまった人、医療に従事している人や家族などに対して誹謗中傷することのないよう指導しなければならない。

ハーフマラソン大会を開催すると、どうなるかを想定したが、実際に開催することは難しいと感じている。実行委員会組織に対して根拠を示したうえで理解してもらいたいと考えている。オリンピックデーランの開催はJOCが厳しい判断を下しそうな状況である。

小中学校の運動会・体育祭については、「当面の間」控えるよう通知されており、上川教育局は「収束するまで」という意味だが、少なくとも1～2か月程度」との見解を示したため、校長会でも1学期中は開催を延期するよう確認した。

学生や保護者の経済状態が悪化しているため、本市の奨学金でもできる限りの支援を行う。今年度の奨学生を決定した後に予算が残っていた場合は、随時申請を受け付け、可能な限り貸与することを検討したい。また、奨学金を返済している方に対しては、返済を猶予することができる旨を文書で周知している。

分散登校の際には給食の配膳を教職員が行うようにとの通知があったことから、中央4校と周辺校で対応に違いが出ることになる。中央4校では登校時間の調整を行うなど、密にならない環境を整える必要がある。

○五十嵐職務代理者

子どもたちは学校の再開を心待ちにしている。1日や2日でまた休業になるのは耐えられないのではないか。大人も不安だろうが、子どもはもっと不安に感じている。新たな目標を持てるようになればよいと思う。

○中峰教育長

文科省からは、休業中に児童・生徒の心身の状態を把握するため、二週間に一回程度電話などによる確認を行うよう指示されているが、本市では一週間に二回確認を行うようにしている。明日は午前9時から臨時校長会議を開催し、家庭での学習指導などについて協議する。

○加藤委員

一年生は学校生活にも慣れないまま休業に入ってしまった。

○馬場委員

夜更かしや寝坊など、生活習慣が乱れてしまっているという話を聞いている。

○五十嵐職務代理者

親の指導力によっても生活習慣が違ってくるのではないかと。指針となるものが必要と感じる。

○加藤委員

学校からのプリントだけでは学力がつかない。顔を合わせて、生きた授業を行う必要がある。

○中峰教育長

例えばオンライン授業の実施も一つの方法である。

○五十嵐職務代理者

全国一律で実施できるのなら不公平感はない。

○中峰教育長

初めての子どもが今年小学校に入学した保護者は、不安を感じているだろう。5月7日・8日に予定している分散登校の際には、学習や生活の指導を行う予定である。

○馬場委員

テレビ放送などでも外出の自粛を呼びかけているが、札幌や帯広のナンバープレートを付けた車が目

につくことがある。

○中峰教育長

ゴールデンウィーク中の動きを受け、7日・8日に分散登校を行うのはどうかという思いもあるが、このままダラダラした生活を送ることは問題である。

○山田委員

教育のめやすとなるものがあれば、家庭でも指導しやすいのではないか。

○中峰教育長

子どもを一番に考えなければならない。先生に工夫してもらいたい。

○馬場委員

NHKのEテレでは、教科ごとに学習番組を放送している。

○中峰教育長

民放でも様々な学習番組を放送している。このような情報を周知する必要がある。

○加藤委員

北海道の職員は週に2日職場に出勤し、残りは在宅勤務という形で勤務している人もいるようだ。

○中峰教育長

和寒町は職員が2交代で勤務している。最終的に休業を要請するのは設置者である。コロナウイルスに関する対応については、今回のように皆さんのご意見を伺いながら決定したい。何かあれば、次回の会議まで待つのではなく、その都度連絡をいただきたい。本年は中体連の全国・全道大会が中止となったが、管内・地区大会については方針が決定していない。

※ 議案第6号 了承

2 その他

当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

午前10時23分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者

中峰 寿彰

会議録調整者

須藤 友章